

白岩善博教授の最終講義が開催

2月13日、2H棟101教室において、「藻類代謝研究の最前線：バイオエネルギー生産と地球環境」と題して、白岩善博教授の最終講義が行われました。

白岩善博教授は新潟大学に在職された後1997年に本学に着任、以来36年間、自身の研究だけに留まらず、学生の「人間力」養成を目指した「大学院共通科目」授業の設立や大学院生たちに研究者としてのコミュニケーション構築を図るため「アジア・オセアニア生物系大学院生ネットワーク (AsOBiNet)」の開催、サイエンス・カフェなど、数多くの教育活動に貢献尽力いただき人材教育に寄与されました。

この日、最終講義の会場となった2H棟の講義室では、白岩先生から薫陶を受けた学生とともに、これまでに輩出されてきた植物代謝生理学研究室のOBの方々、本学教員や新潟大学時代の方々、また、遠くはマレーシアから一時帰国して駆けつけてきた研究者の方など多数参加いたしました。

最終講義では、白岩節とも言えるユーモア溢れる口調で36年間の教員生活を振り返りつつも、「3.11以降の科学者の役割とは？」とご自身の研究者としての本質を常に問い続ける姿がそこにありました。

また、ノーベル賞受賞者で筑波大学の前身でもある東京教育大学学長である朝永振一郎博士の肖像のスライドでは、「学問にひたすら打ち込んだ人間の顔であり、科学者として最後まで意識していかなくてはならない」と後進の方々に向けて熱くエールを贈られて、最終講義を終えられました。



